

人権入門

思い込みや決めつけ

チャレンジ

富士山の絵を描いてみましょう！



3ページの下段にある「富士山の写真」を見てみましょう。みなさんがイメージした富士山より実際は、平べったい、横長いと感じませんか。わたしたちは、富士山は日本一高い山ということから、つつい上に伸びるようなイメージをもっているのかもしれませんが。それは富士山に対する思い込みとも言えます。もちろん富士山への思い込みは偏見や差別につながることはありませんが、日常の中に、思い込みや決めつけはないでしょうか。例えば「□型と△型は相性が悪い」「高齢者は地味な格好をすべきだ」「男なのに…、女なのに…」と言った思い込みや決めつけは、場合によっては偏見や差別につながる可能性があります。

もう一度、自分の中にある「当たり前」を見直してみませんか？

差別とは —差別に気づくための「ものさし」—

大分市では、2004(平成16)年12月に策定した「大分市人権教育・啓発基本計画」(2017(平成29)年4月改定)に下のような重要課題を位置づけ、差別の解消に向けて取り組んでいます。

いずれの人権問題についても、共通する「ものさし」があります。それは、生まれ、性別、年齢など「本人に責任のないこと」「努力で変えられないこと」によって被害を受け、苦しんでいる人がいるということです。

つまり、「それはその人の責任なの?」「それはその人の努力で変えられることなの?」と日頃の言動を見つめ直すことで、「自分が傷つけられている」あるいは「人を傷つけている」ことに気づきやすくなり、自分やまわりの人の人権を守ることにつながります。

差別はする人がいるから起こります。差別される人には何も責任はありません。しかし、このように共通点に着目することで、差別に気づくための大切な「ものさし」が見えてきます。



人権とは…

誰もが生まれながらにして持っている人間として幸せに生きる権利です。

そして、その権利を侵害するのが差別です。

差別をなくすために、こどもたちの明るい未来のために、人権感覚を豊かにし、常に学び続けることが大切です。